

ビューティ・ヘルスケア特集によせて

パナソニック（株） アプライアンス社
技術革新担当 本橋 良



世界保健機関（WHO）が2019年4月に発表した「世界保健統計2019」によると、2016年の全世界の平均寿命は72歳となり100年前と比べて飛躍的に伸びました。わが国においても少子・高齢化社会が進行しており、日本は世界一の平均寿命をもつ長寿国になりました。今や人生100年時代と言われるようになり、「いつまでも若く、健康でありたい」と願う欲求もますます高まってきています。

一方でWHR（ワールド・ハピネス・レポート）による「世界幸福度ランキング2019」では日本は58位と発表されました。これは上位の常連である北欧よりも低く、かつ、ここ10年間ずっと横ばいが続いています。平均寿命が延びたことによって人々は「長生き」から「暮らしの良さ」＝「Well-being」を目指すように変わりつつあります。

運動や健康管理は重要であることはわかっているが長続きしない、逆らえない衰えに対してどうすればよいのか、美を維持するにはどうすればよいのかなど、健康や美に対するお客様の欲求は多様化しています。

パナソニックグループのアプライアンス社とライフソリューションズ社では、このようなお客様の欲求にお応えし、常にお客様と寄り添うために、快適な空間といつまでも健康的な心や身体づくりができる製品、ソリューションの実現を目指したR&D活動を推進しています。

アプライアンス社では「ホームアプライアンス」、AVC、「空調」、「食品流通」、「デバイス」、ライフソリューションズ社では「くらしクリエーション」、「空間ソリューション」の各事業領域で、「快適な空間」づくりや「くらしアップデート」サービス実現に向けた取り組みを行っています。

ヒトの心と身体の状態をセンシングし、アシストする技術は当社の強みの1つであり、ユーザーの健康やライフスタイルへの理解を深めるとともに、AI、IoT、ビッグデータの活用により、一人ひとりのニーズに最適化した値の提供を目指しています。

以下、私たちが重点的に取り組んでいる活動概要をご紹介します。

ビューティ関連技術分野の取り組みとしては、なりた

い自分を創造し、ワンランク上の暮らしを提供するため、髪の毛の潤い、滑らかさを改善するドライヤーの開発や肌へのダメージが少ないシェーバーの開発などを行っています。

また、ヘルスケア関連技術分野ではいきいきと暮らすことができる健康な心と身体づくりを提供するため、快適な住空間の創出と高齢者の健康増進に役立つ取り組みを行っています。たとえば空気浄化作用のある帯電微粒粒子水「ナノイー」、居住者の生活リズムを整える照明環境のソリューション開発、インフルエンザの感染リスクを低減させる気流制御技術の開発があります。また、効果的な膝周りの筋力アップを行うトレーニング機器や疲労回復効果のある全身シャワー装置の開発なども行っています。

さらに介護施設向けの取り組みとして、入浴時の身体への負担が少ないユニットバス、認知機能低下の早期検知技術、高齢者の動作分析によるリハビリ支援システムの開発などを行っています。

このようにビューティ・ヘルスケア関連の技術分野では、生涯を通じてライフステージを豊かにするための機会、時間、場を提供することで社会に貢献していきたいと考えています。

そのための技術開発の進め方として私たちが心がけていることは、徹底した生体研究と、対象物を科学し、心と身体を理解することで、ソリューションを実現していくことです。当社の強みを活（い）かすだけでなく、医療機関との共同研究も積極的に行い、科学的なエビデンスに基づいた商品・サービスの提供をすることでお客様に感動と幸せを与えることができると考えています。

私たちはこれからも、当社グループのブランドスローガンである「A Better Life, A Better World」のもと、世界初あるいは業界No.1のソリューション技術・システムを開発し、快適な生活のためのお客様価値創造を目指すことをミッションとしてR&D活動を推進していきます。

本号をご高覧いただき、当社のビューティ・ヘルスケア技術に関する取り組みへのご理解と、ご意見やご要望をいただければ幸甚に存じます。